

＜ガバナンス経費による研究報告＞

ガバナンス研究は、言語教育研究センターの教員が中心となって行うプロジェクトであり、内容や人数に応じて研究費が配分される。2016 年度および 2017 年度に申請され、認められたプロジェクトは以下の通りである。このプロジェクトの代表者は、その年度か翌年度に言語教育研究センターの本ジャーナルにて研究成果を発表する義務がある。翌年度報告も可としているのは、予算の配分が毎年 12 月ごろ決定するため、ジャーナルの締め切りまでに十分な成果を報告できない場合があるからである。

2016 年の研究の内、 1. 「長崎大学学生のための e-learning 教材 Campus Tour の作成」と 4. 「英語プレゼンテーション視聴覚教材作成 の研究成果」は 2016 年度のジャーナルにて報告済みである。本年度は、2. 「コーパスデータを用いた英語表現力育成教材の開発」と 3. 「WEB 中国語、フランス語初級・中級練習用教材の開発」の研究報告を掲載する。

2017 年度は 7 件のプロジェクトがあるが、3. 「英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究」のみ報告を行い、残りのプロジェクトは来年度のジャーナルにて報告予定である。

2016 年度のガバナンス研究

1. 長崎大学学生のための e-learning 教材 Campus Tour の作成
(リーダー 小笠原 真司 メンバー 廣江 顕、William Collins)
2. コーパスデータを用いた英語表現力育成教材の開発
(リーダー 西原 俊明 メンバー Brien Datzman)
3. WEB 中国語、フランス語初級・中級練習用教材の開発
(リーダー 大橋 絵理 メンバー 楊 曉安)
4. 英語プレゼンテーション視聴覚教材作成
(リーダー 隈上 麻衣 メンバー Brien Datzman, 山下 龍)

2017 年度のガバナンス研究

1. e-learning 教材 Campus Tour 改訂版の作成と付属テストの開発
(リーダー 小笠原 真司 メンバー 廣江 顕、William Collins)
2. 異文化対応力を育成する Clil (内容言語統合型学習) 教材作成
(リーダー 古村 由美子 メンバー Brien Datzman)
3. 英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究
(リーダー ベー・シュウキー メンバー Pino Cutrone (多文化社会学部))

4. 英語プレゼンテーション視聴覚教材作成
(リーダー 隈上 麻衣 メンバー Brien Datzman, 山下 龍)
5. Introducing Self-Reflective Teaching Practices for Center for Language Studies
Instructors
(リーダー Jesse Conway メンバー Akira Hiroe)
6. WEB用中国語文法練習用教材の開発
(リーダー 楊 曉安 メンバー 高 芳 (長崎県立大学))
7. WEB用フランス語、中国語初級・中級練習用教材の開発
(リーダー 大橋 絵理 メンバー 楊 曉安)

2016 年度のガバナンス研究

2. コーパスデータを用いた英語表現力育成教材の開発

(リーダー 西原 俊明 メンバー Brien Datzman)

平成 28 年度ガバナンス対象研究の一つとして、コーパスデータを用いた英語表現育成教材の開発を目指し、ダッツマン氏と西原が協力して e-mail で使用する英語表現の精選と教材作成を行った。場面別に使用頻度が高いと思われる表現を選び、学生が使用できるように準備している。下記のものが表現のサンプルである。

Opening Remarks

Thank you for contacting _____
Thank you for your prompt reply.
Thanks for getting back to me.
Thanks for the information/your phone call/getting me the figures/sending the document.
Thank you for sending the updated information. It's quite helpful for...
Thank you for your patience. I've highlighted in red your requests and placed in bold my replies to your questions.

Purpose

I am writing to enquire about...
I am writing with some news about...
I am writing in reference/regards to...
I am writing to you in reference/regards to...
I am contacting you as ...
I am writing in reply to your letter/email/ request/ enquiry regarding ...
I'm pleased to confirm our appointment at/on ...
Regarding _____, can you tell me ...
If possible, could you let me know ...
I am thrilled to learn that you won...

上記のものに加えて、作成した英語表現リストの一部（医学系学生用語彙リスト）は、e-learning 教材に取り入れる予定である。先に述べた e-mail 関係の表現リストや場面別表現リストについても言語教育研究センターホームページの更新時にアップロードを予定している。さらに、研究の一部として作成したプレゼンテーションコンテストにおける MC 英文リストは、平成 29 年度のコンテストにおいて既に利用している。日本人英語学習者が理解している語彙の意味と実際の使用域のギャップを埋める語彙リスト、及び英文リストは現在も情報を追加している。

3. WEB 中国語、フランス語初級・中級練習用教材の開発

(リーダー 大橋 絵理 メンバー 楊 暁安)

1. テーマ

長崎大学学生のための中国語・フランス語の e-learning 教材の作成

2. 構成員

リーダー 楊 暁安

メンバー 大橋 絵理

3. 研究テーマの目的

本学の初習外国語の授業は 1 年生及び 2 年生の選択必修で週 1 コマしかなく、このような時間数では外国語を取得するには不十分だと考えられる。その不足分を補うには自学自習が必要となってくる。本研究の目的は、初習外国語の習得をいかに効果的に行うかを考察し、学生の能力に適した長崎大学学生のための自学自習用の e-learning 教材の作成することである。

4. 研究方法

(1) 学生へのアンケートを実施し、初習外国語に学生が何を望んでいるかを尋ねた。

<中国語>

「日常会話表現をたくさん覚えたい」(92%)、「正しい発音を身につけたい」(76%)、「ヒアリング能力を身につけたい」(58%) が学生が最も望んでいることである。そのあと、「文法文法をマスターしたい」(25%)、「簡単な作文ができるようになりたい」(10%)、「簡単な中国語の文章を訳したい」(5%) と続く。また、「中国文化や生活習慣をたくさん知りたい」(59%) と「中国人の考え方を知りたい」(27%) との回答もあった。

<フランス語>

CEFR (ヨーロッパ共通言語参照枠組み) の 6 項目の基準にのっとり、習得したい項目についてアンケートを実施した結果、「会話」(52%)、「聞く」(35%)、「話す」(32%)、「読む」(29%)、「方略」(23%) 「書く」(23%) という回答となった。学生が望んでいるのは、まず日常の簡単な会話ができることであり、その後、読解、ライティングという順番であった。そのほか自由記述欄にはフランスの文化や社会、大学生の生活及び考えについても知りたいという回答が多かった。

(2) 学習過程でどのような点に困難を感じているかを尋ねた。

<中国語>

- ・発音が難しい（例えば、そり舌音、-n と -ng の違い、3 声の変化など）。
- ・中国語は動詞や名詞が変化せず、助詞もなく、語順で文章の意味が大きく変わってしまうので、中国語の語順を覚えるのが時間かかる。
- ・中国語の補語が複雑なので、理解しにくい。
- ・「把構文」、「使役文」、「連動文」などが似ているので、分かりにくい。

<フランス語>

- ・発音が難しい。
- ・フランス語には女性名詞と男性名詞があることから、英語よりも冠詞が複雑なので理解が難しい。
- ・動詞の活用が覚えられない。
- ・形容詞が名詞の性と数によって変化するので覚えるのが難しい。

(2) 国内・国外の語学教育の研究会に参加し、初習外国語の授業の方法について他大学の教員と情報交換を行い、CALL 教室や LL 教室を視察した。

5. 今年度の成果

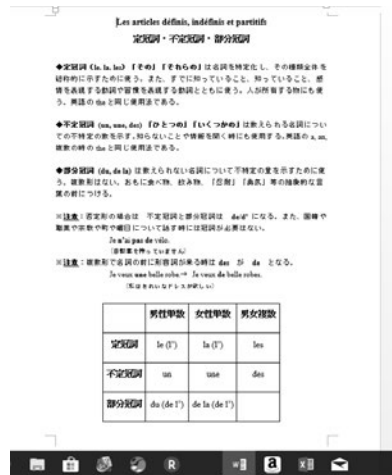
<中国語>

学生が最も難しいと思っている中国語の発音 WEB 練習を作成した。「中国語発音練習」というタイトルをつけ、中国語の子音・母音・四声・声調変化などを重点に、様々な練習問題を楊のホームページ上で 10 セット公開した。この練習問題は中国語の発音を勉強する時に、最も間違いやすい点を整理し、テストの形での練習するもので、学生が回答をすると、自動採点ができ、自分の中国語の発音の実力を把握できるものである。



<フランス語>

- (1) 長崎大学のホームページから学生たちがアクセス可能な問題作成および回答サイト E-Net Libe 上に、主に使用している教科書からの、発音、重要単語、動詞活用等の問題を公開した。学生がそれに回答を書き込むと、自動採点がされる。このサイトの良い点は、繰り返し練習ができることである。
- (2) フランス語習得においてどの点に困難を感じているかというアンケートに基づき、それらを解決できるような、動詞の練習のための活用表、冠詞の説明や日常会話に必要な単語等を LACS 上に公開した。



6. 今後の展望

<中国語>

現段階では 10 セットの問題を用意し、一部分の学生にししか使用させなかったが、今後は 6 月まで 100 セットに増加し、1 年生全員に使用させ中国語の発音についてのぐらい勉強したかを確認させる。

<フランス語>

今後も E-Net Libe 上に繰り返し練習可能な問題と LACS 上にテーマ別の単語や、文法の詳しい説明を公開して、学生が自学自習をするための教材を充実させていく予定である。また、フランスのナント大学と連携して、日本人用の練習問題をネット上に公開したいと考えている。

2017 年度のガバナンス研究

3. 英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究

(リーダー ベー・シュウキー メンバー Pino Cutrone (多文化社会学部))

1. テーマ

英語コミュニケーション授業における英語でのコミュニケーション意欲調査研究

2. 構成員

リーダー ベー・シュウキー

メンバー カトローニ・ピノ (多文化社会学部)

3. 研究テーマの目的

英語でのコミュニケーション意欲を向上させる教授法はどのようなものなのかを明らかにし、限られた英語への接触環境で、より効果の高い英語コミュニケーション授業を構築する。

4. 本研究の必要性

EFL の環境にあり、日常的な英語への接触が限られている日本の学生にとって、動機付けし、英語でコミュニケーションしたいという意欲を高めることが何よりも必要であり、そのきっかけとなる大学の英語授業を効果的にすることは不可欠である。

5. 研究内容・方法

本研究の研究期間は平成 29 年 4 月 (前期) から平成 30 年度 3 月 (後期) までである。前期においては本研究のリーダーを務めるベー・シュウキーが持っている全ての英語コミュニケーション I 授業でコミュニケーション意欲を向上させる教授法としてタスク・ベースの指導法 (TBLT) を実施した。授業の初回及び最終回には英語でのコミュニケーション意欲のアンケートを実施し、一学期間にわたる実施の結果、学生の英語でのコミュニケーション意欲が高まるなどの成果がみられた。

後期においては TBLT が英語でのコミュニケーション意欲向上に効果があることを立証するために、TBLT を経験したことがない学生の英語でのコミュニケーション意欲と比較した。

6. 今年度期間内の達成状況と今後

前期の調査結果及び分析を論文にまとめて投稿し、審査の上採択された。また同内容について国際学会で発表をおこなった。詳細は以下の通り。

カトローニ ピノ・ベー シュウキー（共著）、**Adopting a Task-Based Approach to Address ELT Issues in Japan. In Program Book & Selected Papers from the Twenty-sixth International Symposium on English Teaching (pp. 150-159).**,English Teachers' Association - Republic of China: Crane Publishing,2017年11月。

今後は、後期の学生のアンケート調査結果を、異なる英語教授方法を体験した学生の調査結果と比較・分析し、その結果を論文にまとめる予定である。